

かわもと あつし  
川本 淳

●自治労・書記長

## 「食」と「方言」

年末年始の人民の大移動を終え、2015年新年を無事に迎えた。自治労も当然のように全国各地から本部に人が集まってきている。よって、多くは年末年始、故郷に帰る。地元の食べ物や雰囲気にとっぷりとつかってくる。

私は東京にきて、4年目になるが、そんな全国各地から集まった仲間と一緒にいると、「ほほお」、「ふーん」、「へえ」と感じるが多々ある。そのうち、特に気になることを2つばかり紹介したい。

ひとつは「食」に関する事。食習慣というか、食文化というか、食の嗜好というか、「食」に関する地域性の違いだ。

まあ、ラーメンは醤油・味噌・塩の三味や出汁のとんこつ・鶏がら・魚介系など全国各地でいろいろな形で食されており、種類も豊富な分、好みによって相当左右されるであろう。しかし、そばは大きく分けて、東日本と西日本で大別されると感じる。ずばり、「つゆ」の色だ。

「あんな黒くて辛い汁でよう、そば食えるなあ」と言われるが、私にとっては、色が薄いと醤油を探して入れてしまうくらいなので、習慣とはおそろしい。肉そばといえば、私の中では豚肉という感覚しかもっていなかったが、西日本では牛肉だった。

そして醤油の違い。九州を中心に「たまり醤油」というか、どろっとして甘い醤油が好まれるが、私にとっては衝撃だった。醤油が甘いとは。

さらに、福岡の出身者と議論になったのは、その醤油を付けて食べる「いかの刺身」。す

るめいかVSあおりいかVSけんさきいかなど、地域によって好んで食べるいかの種類そのものが違った。人の数だけ好みがあるが、その原点は食習慣であり、食べなれたものが一番ということであろう。

そしてもうひとつは、「方言」だ。

「単語」も「イントネーション」も様々。自治労の機関会議で、提案する役員は議案をもとに、発言する組合員は原稿を持って話すので、方言が強くなるということはあまりない。しかし、イントネーションはしみついていっているのではっきりと出る。メジャーな方言と言われる関西系や最初の音を強く発音する中国地方など、なんとなく会議場に飛び交う。ただ、方言が強くなるのは、答弁の時だ。

北九州弁を巧みに操る副委員長の答弁を東日本の県本部から、何を答弁されたかわからないから、ペーパーにして送ってほしいという要請もあった。その後の笑い話で、答弁に困ったときは方言を前面にだして乗り切ろうという議論が真剣に執行部の中であったとか（笑）。

かくいう私も、方言の使い手である。ある日、「この中で標準語話せるのは俺だけだべ」といったとたん、周りから「あなためちやくちやなまっていますから」とまわりから一斉に突っ込みを受けた。なるべく方言としての名詞を使わないようにしていたが、北海道独特のイントネーションや「～だべさ」をかなり使っているということである。まあ、たしかに使っていますな。ネットに「つい使ってしまう北海道弁ベスト20」というのがあっ



たのでその一部を紹介と解説する。

第1位「(ごみを) 投げる」。学校でも「ごみ投げ当番」といのがあった。書記局で使ってみたら、岩手出身者には理解いただいたが、ほかの人はきょとん。ごみは捨てるものだという。

第2位「(手袋を) はく」。手袋ははめるものというが、私は靴下や靴のようにいまだに「はく」が正しい言葉ではないかと思う。

第3位は「こわい」。疲れたとか体がだるいときに使うが、「恐ろしい」ととらえられると意が伝わらないので、医療機関では使えない。

第4位「きかない」。気が強いという意。「うちの子はきかない」などと使う。

第5位「うるかす」。水に浸すの意でご飯を炊く時、米を「うるかす」のは基本。北海道時代便利に使っていたのが「この案件どうしますか」と問われた時に「うるかしとけ」とよく使った。わざと放っておき先送りにするといったところか。

最後に私が普通に使っている言葉を会話風にして紹介する。

Aさん「この間の観楓会(秋にする慰安旅行や花見のような宴会)で食った秋味(秋に収穫される鮭)と、たち(タラの白子)と、こっこ(魚卵)と、ごしょいも(じゃがいも)のおつゆ(味噌汁)は、なまら(とても)うまかったな。」

Bさん「ザンギ(鳥の唐揚げ)とサガリ(牛のはらみ)もうまかったべ。だけど、こっこは少しあめて(腐って)たから、俺は投

げたわ(捨てた)。」

Aさん「温泉は熱かったからうめた(うすめる、ぬるくする)んだけど、おかげで長風呂して、すっかりうるけたわ(ふやけた)。」

Bさん「そういえば、お前のおんじ(弟)も来てたけど、普段はいいふりこき(格好をつけたがる人)だけど、宴会ではおだって(調子に乗って)唄歌ったり人をちょしたり(いじくる)、こちょばしたり(くすぐる)してばかりいたな。」

Aさん「おー、たくらんけ(愚か者、よっぱらいにも使う)になって、廊下にあったがんがん(一斗缶などの空き缶)に足ぶつけて朝みたら、足にがんべ(かきぶた)つくってたわ。」

Bさん「そういえば、鼻につっぺ(鼻血が出たとき、鼻にティッシュなどを詰める事)して、みたくくない(みともない)格好して朝飯食ってたな。」

Aさん「宴会の後、一人で街にでて、どこいったか覚えてないらしいけど、財布の中はだら銭(小銭)だけしかなかったとき。本当にはんかくさい(愚かだ)やつだ。」

Bさん「子供のころは、おとなしくておっちゃんこ(座る、正座)して、だはんこく(わがまをいって騒ぐ)ことも、ごんぼほる(意地を張ってすねる)こともなかったのにな。」

この会話はノンフィクションで登場人物も実在します。